

平成26年 7月 9日  
千葉大学医学部附属病院

## 千葉県で初めての生体肺移植を実施し、無事終了

千葉大病院、肺移植に新たな可能性を示す

7月8日（火）、千葉大学医学部附属病院（病院長 山本修一 千葉市中央区亥鼻1-8-1）は、レシピエントの肺の一部を温存した生体肺移植を実施し、無事終了した。千葉県での肺移植は初となり、両側上葉温存肺移植（\*）は国内で7例目となる。

今回の移植手術は40代男性に行われ、男性は皮膚筋炎に伴う間質性肺炎（CADM-IP）で、2ヶ月の経過で呼吸不全が進行し、移植以外の治療法では救命が困難状態と判断されていた。急速な経過から脳死肺移植を待つ猶予はなく、準緊急的な移植となり、兄妹（生体肺ドナー）から健常な肺の一部（各々の肺の4分の1）が提供された。

移植手術は吉野 一郎 教授（呼吸器外科）と京都大学の伊達 洋至 教授が中心となり、9時間に亘る手術のうえ無事終了した。

現在、患者さんはICUにおいて24時間体制で監視しており、容態は安定している。

### \* 両側上葉温存肺移植

右肺は上葉（よう）・中葉・下葉、左肺は上葉・下葉からなる。通常の肺移植はレシピエントの一侧または両側の肺を全摘出して、ドナーの肺を移植する。脳死ドナーの場合には一侧または片側の全肺、生体ドナーの場合には1人の右下葉ともう1人の左下葉を移植する。両側上葉温存肺移植では比較的機能が保たれている両側の上葉を温存し（右中葉・下葉、左下葉を摘出）、2人のドナーより各右下葉と左下葉を摘出して移植する。

### <吉野 一郎 教授（呼吸器外科）のコメント>



今回は、千葉県では初めての生体肺移植となった。  
現在、移植された肺は順調に機能しており、今後も容態を注視し、回復に向けて全力を尽くしたい。

本件に関するお問い合わせ先  
千葉大学医学部附属病院  
呼吸器外科 准教授 吉田 成利  
助教 鈴木 秀海

Tel:043-222-7171

E-mail: s-yoshida@faculty.chiba-u.jp

取材に関するお問い合わせ先

千葉大学医学部附属病院  
総務課 広報係 下條、渡辺、三村

Tel : 043-226-2225 Fax : 043-224-3830

E-mail : xae6025@office.chiba-u.jp